

## 第1回 飯山市行政改革推進委員会 顛末（要約）

日時 平成30年6月26日（火）午前9時30分  
場所 飯山市役所4階第2委員会室

### 1 開 会（企画財政課長）

### 2 あいさつ（副市長）

第5次行財政改革大綱では、平成29年度の基金残高目標を15億円以上としたが、約44億円と、目標を大きく上回る結果となった。

今年度は、飯山市の第5次総合計画 後期基本計画の初年度となる。「いいやまづくり」に向けた4つの重点目標と21の戦略プロジェクトを実施し、飯山市づくりを推進していく。

行政改革というと、市職員の削減、給料を削減という意見が多いが、みなさまのお考えをお願いしたい。

災害が多い時代を迎え、また、人口減を迎える中で、どのように職員を使ったらよいか、など、各般にわたり、ご検討をお願いしたい。

村部の集落について、維持できない地区もそろそろ出てきている。このことについてもみなさんのご検討をお願いしたい。

現在の過疎対策の事業が、H32年度で終わる予定だが、これも大きな課題である。

いずれにしても、「安定した行政運営ができるのか。」という観点より、各般に渡り、市民1人1人の立場にたって、本委員会での活発なご議論をお願いしたい。

### 3 委嘱書伝達

副市長より委員各位へ

### 4 自己紹介（別紙）

### 5 会長及び職務代理の選出

会 長 伊東 博幸

職務代理 佐藤 正行

### 6 会長あいさつ（伊東会長）

私たちのとりまく環境は、新幹線飯山駅が開業して、インバウンドのお客さんが増えていますが、街中のにぎわいも一緒というわけにはいかない。

この地域は、新幹線誘致から開業まで30数年かかっている。その間に人口も3万数千人から2万人を割ろうとしている。併せて高齢化も進んでいる。そのような中でも、私たちは、この地域から逃げていくわけにはいかない。どんどん新しいみなさんに、全国からきていただけるまちに、努力していかなければならないと思う。

子どもから高齢者まで、誰もが希望をもって、安心して暮らしていける飯山をつくっていく、そんな答申につながればと思っている。

このような環境をつくっていくには、お金が必要となる。飯山市も財政状況がきびしい中で、貯金ができたと話もあった。飯山のまちづくりのため、有効に利用できるよう、みなさんからもいい知恵をだしていただけるようお願いしたい。

### 佐藤職務代理

伊東会長にしっかりついていき、職責を全うしたい。

## 7 諮問

副市長より伊東会長に  
諮問書（添付のとおり）

副市長 公務により退席

## 8 審議

以下の資料を事務局説明。⑤については、資料の紹介のみ行った。

- (1) 行政改革推進委員会について（資料3）
- (2) 答申までの審議日程案について（資料3-2）
- (3) これまでの行政改革の取組と飯山市の行財政等の現状について
  - ① 飯山市第5次行財政改革大綱の実施状況について（資料4）
  - ② 行財政健全化プラン実施計画における主要な取組みと取組結果（資料5）
  - ③ 基金残高の推移と今後の見込みほか、飯山市の財政資料（資料6）
  - ④ 飯山市第5次計画 後期基本計画について
  - ⑤ 行財政改革における国内の取組み等について（資料7～資料11）

会長 今回が第1回となるが、委員のみなさんの忌憚のないご意見をお願いしたい。

委員 活性化センターの見直しに係わったが、苦しい思いをした。この点が、行革の結果が一番見えたのかと思う。やっと8割方の達成となったとあった。地区活性化センターの理想の形はわからないが、感想として述べさせていただいた。

事務局 活性化センターについて、地区のみなさんにご協力を頂く中で、あと2つ、太田地区と常盤地区の嘱託化に向けて取り組んでいきたいと考えている。

委員 活性化センターの嘱託化について、今現在、活性化センターには、嘱託職員が配置されているが、今の職員の方が非常がんばっている。夜間、土日の会議、行事など、正規職員と同じように取り組んでいる。嘱託化前と同様の事業の遂行はできているが、非常に負担をかけているのが現状と思う。

基金残高について、当初5か年の末の目標では15億円を見込んだとのことで、結果は、44億となった。これにはふるさと納税の効果が大きかった、という説明があったがそのとおりかと思う。

ふるさと納税は、2次効果があったのかなかったのか否か。

定員管理計画で、非常勤職員の数と比べると正規職員が少ないと思う。非常勤職員に負わせている部分があって、それが行政サービスの低下につながっていないか、という検証はしているか。

事務局 市内の企業、農家が作った生産物を返礼品に入れており、ふるさと納税の2次効果となり、市内の経済も潤っている。中でもお米が人気である。ふるさと納税で「まぼろしの米」を返礼品として取り扱いをしている。

正規職員数と非正規職員数の割合、バランスが適当か、については、当市内では、今後ますます、少子化、高齢化が進む中で、行政に求められるサービスがまた変わってくると思われる。現状の職員数では、新たな課題に対する取組みに対応する職員について、もう一度見直す時期にきていると思われる。

非正規職員は、事務的な業務を、活性化センターの職員を嘱託化させていただき、休日や夜間の仕事をしてもらっている。これからの小集落の課題に向けた取組も、大きな重要な行政としての課題と感じている。これらの取組は、正規職員が取り組むべきものと考えている。

非正規職員が多い理由は、面積が広く、学校、保育園等の数が多いことが考えられる。保育職場は、正規職員が片手もない保育園に、臨時嘱託職員を多く配置し、保育の業務を行っているのが現状である。現状の正規職員と嘱託職員のバランスについては、今後の

課題と考えている。

委員 ふるさと納税は、都会からの住民税の移管という仕組みだった。最近では、都会での減収が大きくなり、都会も力をいれてくる。いままでのように、ふるさと納税で潤沢な寄付があるとは限らないと思う。納税者の期待に応えられるような、「心の返礼品」部分も含めて、工夫する必要があると思う。

嘱託職員の資格職は、資格をもって仕事に取り組んでいるので、それはそれでまかなえていると思っている。

嘱託職員が対応できることに、正規職員が立案しなければならないこと、きちんと棲み分けをして欲しい。行政サービスの低下につながらないことが大前提と思う。数値目標に併せて、職員を減らすというやり方は間違っていると思う。

委員 行政がやるもの、民間がやるものをきちんと分けないといけないと思う。いたずらに職員の数を減らすのはどうかと思う。

理由として、子ども館「きらら」が開館した。未満児までかかえて、先生方は疲弊している状況がひしひしと伝わった。子どもを育てるという点については、手を抜いてはいけないと思う。高齢化となると、誰かが市役所に来て手続きをするというよりも、家から出ていけなくなるという状況が沢山でてくると思う。残さなければならないところとカットしていけるところ、しっかりと見極めることが必要と思われる。

「きらら」では、サービスを5つ備えている。そのうち、放課後ディサービスは、高水福祉会に委託している。1つの施設の中で、直営と、委託で任せるところがある。これも大英断だったと思う。こういうこともこれからどんどん必要になるのかと思う。

市役所職員の場合、災害対応や大会の対応と目に見えないところの対応が沢山ある。日本は災害列島であることと感じている。何かあれば、それぞれの地区で、市役所職員が中心となって、避難所を開設する。そういうためにも、正規職員がある程度必要。何を残して、何を効率化していくことを見極めることは難しいと思う。

委員 新たな歳入の確保は重要である。ふるさと納税で何億となったという話があった。資料4の10ページに、ふるさと納税の次に、広告収入という項目が並んでいる。費用対効果はどうだったか。

事務局 空スペースの活用として、効果があったものとする。収入は、2桁に届くか届かないか、という金額である。

委員 このような小さい収入についても、「取り組んだ」と評価しているが、歳入という点から考えると、ふるさと納税の成果とは桁が異なる。看板広告収入について、「取り組んだ」と判断するのは、どうかと思う。

アンケートの実施について、アンケートを取ることが目標ではなく、アンケートの意見をどう反映させ、改善させるかが目的となると思う。この資料だけでは、実際に何に取り組んだかが見えなくなる。目的、目標の設定がどうかと思う。

また、記載方法についても、「自分の声が市政に反映されている」という回答だけを示しては、その反対の回答がどのくらいあったかわからない。データを示すときは、両方を示す必要があると思う。データも出し方によっては、見方が全く変わってくると思う。

また、「反映された」という割合が下がっている。これは問題だと思う。下がったということで、「こういう対応をした。」というのが取組みの結果だと思う。対応をした、というのが評価のポイントとなるころと考えており、アンケートをやりました、というのが取組ではないと思う。このような点について、随所に見受けられるが、行政としても色々な取組をしていることは重々承知しているが、甘くまとめてしまうと今後の役に立たないと思う。こうことが、いわゆる「役所仕事だ」と思われてしまう。そうならないような、目的を見据えて、厳しい判断結果を出すことも行政改革の1つだと思う。

事務局 ご意見のとおり。第6次に掲げる項目については、甘い判断とならないよう、盛り込みこんだ内容については、しっかりと評価・振り返りをしたい。

委員 資料4の7ページに「総合的かつ計画的に人材育成を推進し、人的資源の有効活

用を図る。」とある。計画的な人材の育成という点について、ここ数年で、かなり男女共同参画が進んだと思う。市役所の組織では、男女共同参画がどのくらい進んでいるのか。市民の男女共同参画の意識を高めるため、市役所がその手本となるべきものと思う。

女性の登用、女性の活躍と国では推進しているが、女性自身にも問題はある。しかし、いざ、自分がやらなければならないという葛藤の中で、それを支えてくれる男性の存在が必要だと思う。職場の中でも、家庭の中でも。ここに書かれている、職員の能力を最大限に引き出すという文面からして、市役所の中での女性の活躍をしっかりと考えることが、市民に向けての女性の活躍をしっかりとアピールできる、自然体で訴えるものも大きいと思う。この項目も大事にして欲しいと思う。

委員 いろんなことで、市の職員は男女共同参画の取組の中でお手本になってほしい、という意見があった。現在、これだけ職員の人数が減らされている中で、仕事が詰め込まれている感じがする。仕事はこなさなければならない、家庭は顧みなければならない、共稼ぎだ、そうすると、女の方は出ていきたいがでていけないと悪循環となる。いろんなところに出ていきたい気持ちもあるが、現実なかなかなか難しいと感じる面がある。職員を減らすといういろんなところに影響がでていくので、職員の質も大切だが、数も重要と考える。

委員 クレーム対応も、事業者として直接謝りたいと思うが、クレームを伝える方は名前を名乗らない。市でも、もう少し踏み込んでもよいのでは、そうすれば、個人的に直接謝るなり、対応することができる。その対策も、本人に話が伝えられず対策がとれないことが何回かある。個人でも対応をしているが、市の対応を、もう少し踏み込んでいただけるとありがたい。

委員 人口も減り、若者も減っている中で、積極的に市のボランティア的なところへ参加するという若者がわずかになってきている。今後の飯山市を支えていく世代がこのような状況だとどうかと思う。こういった世代にも参加してもらうようにしていくか。市民が区の行事等への参加がないと、区もまわらなくなりつつある。若者の意識を変える試みも必要だと思う。

委員 第5次基本計画の折に、半世紀以上飯山の行政と係わってきた感想を述べさせてもらった。昭和30～40年にかけて飯山市は、格段に住みやすくなった。以前は、冬、道路が使えず、3月になると、ブルドーザーが道路をあけ、やっと車が通れるようになったという状況だった。

冬季間、駅のそばに下宿した。週末になると歩いて3～4Kmかけて家に帰る。そういう生活だった。昔は、普通の生活なので苦痛という感じはなかった。親たちは、雪が降ると眉をしかめて、また春をまつという状態であった。小学校のころ水道が普及し、その後20年経つと、下水道が普及した。今は、蛇口をひねれば水がでる、流れるという安心安全な生活を送ることができる。中学生のころまでは、裸電球のみでその他は江戸時代に近いような生活であった。

行政もがんばった。市民も歯を食いしばってがんばったと思う。

「パブリックコメント」という言葉があるが、長い目で見えていかないと効果が期待できない部分のほうが多いと思う。市民の声というのが、声を上げた少数が大声となる。声を上げない大多数は、意見として見えないところがあるが、いい意味で付度をし、行政で市民と協働で、飯山市全体をよくしたいという思いがある。

先日、若い子育て世代と話す機会があったが、「飯山市は住みにくいので、できれば長野市に引っ越したい。」という話をしていた。私は、それでは飯山市はだんだんみじめになると思う。人間は、自分の生活環境の中で生活をする。与えられた環境で、いかによくなるよう工夫をする必要あると思う。気に入らないから逃げ出すでは、どこに行っても変わらないと思う。隣の芝生は青く見えるという言葉があるが、長い目で子どもや孫が大きくなったときに、飯山市もよくなってきているなと思えるように、飯山市も市民も共にやっていきたいと感じる。

委員 第5次後期基本計画策定に委員として参加した。その時の資料の中で、あと25年

後には、3人に1人が80歳以上となる。若者の負担が増えると思われる。職員も個人に係る業務量が増えたという話があったが、今まで10人や15人でやっていったものが、今では5～6人でやっている。それだけ負担が大きくなっている。人を採用することが、1つの解決の方法かと思う。そのためには、市民や事業所が外貨を稼ぎ、税金として市に収め、行政サービスとして返ってくる、という好循環が一つの手でもあると思う。

資料4の8ページ中で、接遇マナーの向上について、職員研修の機会を設けているので、研修を受けさせてはどうかと思う。年1回、2時間である。サービス向上につなげるよう意図しているのであれば、調整すべきであると思うし、改善できるところだと思う。

委員 飯山市の中にも色々な課題があると思われるが、しっかり勉強し、そして人に広めていきたい。

委員 今後のスケジュールについて教えて欲しい。

事務局 次回の進め方について、2回から3回でまとめたい。今回は過去を振り返る、というものであった。今後は、人口、集落の将来等についても検討していきたい。

事務局 次回の開催は、8月6日16:00からを予定したい。

10 その他 なし

11 事務連絡

(1) 委員報酬について

12 閉会 11:10